

第11回 第6分科会会議録（概要）		場 所	新宿清掃事務所 会議室
日 時	平成17年12月3日（土） 午後1時00分～午後3時00分	記録者	【学生補助員】 江藤慎介、平佑貴
		責任者	区事務局（荒井）
<p>会議出席者：41名 傍聴者2名 （区民委員：33名 学識委員：3名 区職員：5名）</p>			
<p>■配布資料</p> <p>【当日配布分】</p> <p>①進行次第</p> <p>②第10回第6分科会会議録（概要）及び第6回運営委員会記録（概要）、分科会リーダー及び学識委員による打ちあわせ</p> <p>③協働・参画、コミュニティの事例検討</p> <p>④新宿区組織図</p> <p>⑤新宿区におけるNPO・社会貢献活動団体などの現状</p> <p>⑥NPO活動資金助成事業のご案内</p> <p>⑦計画の体系（健康で思いやりのあるまち）</p> <p>⑧第4次実施計画の資料</p> <p>【事前送付分】</p> <p>①「協働・参画」について</p> <p>②「コミュニティ」について</p> <p>③平成17年度 協働事業への取り組み</p> <p>④平成16年度 協働事業進捗状況一覧</p> <p>⑤新宿区と町会自治会</p> <p>⑥町会・自治会における地域活動などについてのアンケート調査結果</p> <p>⑦町会会員数の推移</p> <p>⑧新宿区民意調査からの抜粋</p> <p>⑨《参考資料》新宿区まち歩き 感想カードまとめ～第3分科会～</p> <p>■進行内容</p> <p>1 開会</p> <p>2 運営委員会についての報告</p> <p>3 「協働・参画」「コミュニティ」に関する事例報告</p> <p>4 配布資料の説明</p> <p>5 テーマ、事例の検証</p>			

6 各班での検討

7 その他

8 閉会

■会議内容

【発言者】●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員

1. 開会

●：進行役は3班の梶村、それから森田です。よろしくお願いします。

2. 運営委員会についての報告

●：運営委員会についての報告をリーダーの高野さんからお願いします。

●：運営委員からの報告をします。運営委員会では前回の議論をまとめて、それから起草活動について話をしました。また協働・参画についてリーダーと学識委員で話をしました。発言内容としては、各班の状況や、学識委員に質問を分析して欲しい、議論の雛型・パターン化が必要ではないか、個別の意見が表現しづらいなどの話が出ました。

基本課題（協働・参画、コミュニティ、自治制度など）の共有化・開示が必要という意見もあり、これらを一応今回は事例を通じて行えば良いのではないかと、また全員に見てもらふことが必要ではないかということになりました。今日終わってから、12月17日までに改善方法を考え、来年1月12日までにレポートを出し、14日に運営委員会、21日に中間発表の素案を検討、2月4日に中間発表の内容を確定、という流れになります。皆さん、ご協力お願いします。

●：本日配布した会議録の最後部分や別紙の最後のスケジュールをご覧いただければ、今の話やスケジュールが混んでいることなどもご理解頂けると思います。会議を進めていきますが、区のほうで実際にどういうふうに協働・参画事業が実施されているのかの報告を受けて、理解して、その後検討に入りたいと思います。また、どうまとめていくかという指針についても学識委員にお話をうかがいます。

3. 「協働・参画」「コミュニティ」に関する事例報告

○：（道とみどりの課長）こんにちは。私どもの部署は、道路や公園などを作る、改修する計画を行う部署です。今回、「協働・参画」「コミュニティ」に関する事例として、新宿中央公園の一角にビオトープを作った事例を紹介します。3枚からなる新宿区の事例検討の配付資料を使って、説明させていただきます。

これまでは、公園などを計画する時に、行政がいくつかの案を示し、区民がそれを選ぶといった、行政主導のような手法で行ってきました。結果として、あまり使われない公園が出来たり、公園の改修や管理に問題が生じたりしていました。平成10年頃からは、皆さんの

ご意見を聴いて、予算規模などの条件をお示ししながら、区民の方に自主的に、公園の計画に関して白紙段階から参加いただくような試みをしております。道路に関してもそのような考え方で進めております。

資料をご覧ください。ビオトープを作った経過ですが、それまで新宿中央公園の中の一角を東京都下水道局に貸していましたが、区に戻していただく際に（原状復旧して）もっと有効に使えるのではないかということになり、これまでなかった「ビオトープ」という場所を作ろうと考えました。その際、区が主導で作るのではなく、区民の方を中心に計画して頂こうと考え、14年3月の区広報で区民の方に呼びかけました。結果、30名ほどの関心のある方に集まって頂き、会が結成され、計画の白紙状態から案を練り出して頂きました。

資料3ページの右一番上のように散歩道や田んぼを作りました。携わってくださった方は、基本的に個人としての参加で、ご夫妻や学生さん、社会人、近隣の方など様々な方がいらっしゃいました。

次に4ページですが、会は約1年間に13回ほど集まり、武蔵野市などの事例を参考にしながら議論や見学会などをして考えをまとめていきました。参加者の中に建築関係の方がいらっしゃったので、（4ページの）左下のように自主的に模型などを作って頂き、これが非常に効果があったと思います。

現在、基本的には月1回の自主的な参加ですが、人によっては毎日のように参加して頂きます。また、近隣の小学生が田んぼで稲刈りをしましたし、昨年からは中央公園の中の環境学習情報センターの活動とも関わっています。このような活動をもっと広げていきたいと思っております。

2ページをご覧ください。この事業の評価としては、参加者にまだまだ温度差も見られましたが、運営も自主的でうまくいっているとの評価もあります。ただ、一定の方々の参加に限られているので、さらに取り組みを周知していく必要があります。さらに広報活動などを行っていき、“知ってもらうだけでなく参加してもらう”ことが大きな課題です。

全体的な感想としては、30人の方のそれぞれ違う意見を、時間もかかりましたが敢えてまとめませんでした。これが良かったかどうかには、いろいろな意見があると思います。

区はちょっと引きながら、守る会が中心に活動を行いました。現在29名が登録していますが、活動者は約半数です。可能な限り、もっと様々な団体と関りを持って参加者を増やしていきたいと思っています。完成形というのではなく、日々、変わっていくのだと思います。子供たちに小鳥とかチョウ、稲刈りなど自然に触れてもらえるビオトープを作ることを目標にしていきたいと思っています。また中央公園の事例から、戸山公園などを活用していきたいとも思っています。以上です。

- : 今の発言から何かご意見、ご質問はありますか？
- : ビオトープについて、生涯学習推進委員会が借りていましたが追い出されました。また、費用はいくらかかったのでしょうか？
- : 約1000万円かかりました。

- : 29名で1000万円くらいですか?同じようなことをしている落合第二小学校では、1000万円ももらっていないと思います。学校の雨水を田んぼへ流したり、もっと立派なものを作っております。区で大事なことは土木と落合第二小学校でやっていることとどちらでしょうか?もっと一緒に活動していけないのでしょうか。土木は土木なのでしょう。そういうことを協働とか言う前に、一体でできないのかということです。
- : ここは、何も無いところから施設を作りましたので、非常に費用がかかりました。費用は給排水等の基盤整備からお金を出したものです。学校との協力についても進めており、平成15年からは5ヵ年で全学校に緑化の事業を進める、雨水などの件も連携しております。
- : 協働ということで、区がお金と場所を提供して、区民が活動・参加するのが協働と考えているのですか?
- : そういう面もあります。もう一つは従前だと区が一方向的に幾つかの案を出していましたが、計画の始めの段階から呼びかけて参画することが重要だと考えます。作るだけではなく、自主管理を行ない、課題があれば一緒に考えることだと思います。

4. 配布資料の説明

- : ありがとうございます。では、次のテーマに移らせて頂きます。テーマに関して、区職員からお話を頂きます。
- : 配布資料の説明を行います。郵送させて頂いた資料ですが、お持ちでない方がいらっしゃいましたら、お近くの方と一緒にご覧いただければと思います。

【事前送付分】

今回の事前送付資料は、今回の会議の開催通知とともに郵送させていただきました。

- ①「協働・参画」について、②「コミュニティ」について：これらは以前このテーマについて、検討して頂いたものをまとめたものになります。
- ③平成17年度 協働事業への取り組み：これは、区では毎年予算概要をつくりますが、「協働」をキーワードに各事業課の事業の中から取り出し、どういう予算規模でどういう事業を協働としているのか、まとめたものです。
- ④平成16年度 協働事業進捗状況一覧：これは年1回、各事業課からの報告を一覧にまとめたものです。区の役割や効果・課題などをまとめています。平成17年度のは現在、作成中ですので次回の会議でお渡ししできると思います。
- ⑤新宿区と町内自治会：新宿区には199の町会・自治会があります。各町会、自治会で何をされているかを一覧にまとめたものです。
- ⑥町会・自治会における地域活動などについてのアンケート調査結果：実際に何をやっているのか、アンケートを行いました。平成15年度にアンケートをした結果で、回答率は61.3パーセント程度でした。
- ⑦町会会員数の推移：町会の会員数の推移を、平成6年から平成16年まで集計したものです。会員世帯数を住民基本台帳数で割りかえたものです。平成6年には59.98%

だったものが平成16年には51.35%へと8%ほど加入率が低下していることもお分かり頂けると思います。

- ⑧新宿区民意識調査からの抜粋：これは区が行なっていた各年度の区民意識調査から、必要な項目データを抽出したものです。
- ⑨《参考資料》新宿区まち歩き 感想カードまとめ～第3分科会～：これは第3分科会がまちあるきの感想を各地域ごとにまとめたものです。

【当日配布分】

- ①進行次第、②第11回第6分科会会議録（概要）および第6回運営委員会記録（概要）、分科会リーダーおよび学識委員による打ちあわせ、③協働・参画、コミュニティの事例検討：第2回分科会で検討したことを取りまとめたものです。
- ④新宿区組織図：平成17年4月に組織の改正がございまして、その後の組織図です。資料に書いてある組織の名前などを調べる際にお使いください。
- ⑥新宿区におけるNPO・社会貢献活動団体等の現状：これは、平成15年度に早稲田大学・区・社協、早稲田大学で、アンケートを取りまとめたものです。
- ⑦NPO活動資金助成事業のご案内：区の財源と寄付金を基金に積み立てて、NPOの区民対象事業の社会貢献活動の助成を行っています。詳細は、中をご覧ください。17年度の助成事業に関しては12月15日号の区の広報紙に掲載いたします。
- ⑧計画の体系（健康で思いやりのある町）、⑨第4次実施計画の資料です。

5. テーマ、事例の検証

- ：なかなか資料が多く混乱しますが、ぜひ討議の中でお使いください。次は、事例の検証ですが、これまで各班で、テーマ検討ととりまとめがされ、これを最終的な答申に向けとりまとめることが難しくなってきます。一方で中間発表に向けての動きも整理がしづらと思います。座長からも話がありましたが、これを踏まえて学識委員からお話頂きたいと思います。
- ◎：（三田）今の資料説明いかがでしたか。どういう体系と意図で資料が作成されたかお分かりいただけましたでしょうか。こういうことが今の我々の現状ではないでしょうか。これからゴールに向けて、どういう解決をしていけばいいのか、作業をしていくのか、中間発表に向けて見通しがきくように議論の見取り図を作るようにしたいと思います。
区職員の方にお尋ねしますが、17年度の協働事業への取り組みという資料ですが、ピオトープ事業は入っていますか？また、この資料は多文化共生、地域安全の網羅性があるのでしょうか？
- ：平成17年度予算については、全てを網羅しているものではありません。しかし、平成16年度の進捗状況一覧は、協働事業全てを網羅しています。この2つの資料は、必ずしもマッチングしているわけではありません。予算概要の多文化共生については、10ページに予算額、新規事業の概要が載っています。また、地域安全は、11ページ以下に載っています。
- ◎：予算で見えていく見方もありますが、申し上げたいのは、今日初めて事業ベースで協働事業が

どのように行われ、どう行われていくのかという資料を頂きました。我々は協働・参画、コミュニティ、自治制度などに関してどう進めていったらよいか、問題提起をしていきたいと思います。配布した資料の「計画の体系」をご覧ください。

行政の施策がどういう形で展開しているのかを見ていきます。大・中・小項目とずっと事業が展開していき、具体例が下に出てくるという形です。こういう形で行政の事業は体系化され、実施されていくわけです。そうすると、我々は多文化共生をどうやって見ていくか。小項目とそのもとで展開している事業を見ていかないと施策は追えなくなるわけです。

「多文化共生」というのはどこに入るのか、そういう事業が区民にどう対応しているのか、過不足が色々出てきます。資料中の01～09の細かな事業の中で、多文化共生の行政サービスとしての小項目のどこにあてはまるのか。また、地域安全については、犯罪に関して網羅性がありません。

これまでKJ法で生活者としての意見、問題提起をまとめましたが、行政が体系化した中で「生活者としてだけの提言」とするのか、「行政の施策・体系のことまで踏み込んだ提言」とするのか、そういう中間発表や提言とするのか、今大きな岐路に立っています。それぞれの生活者の中での区民として考える時期に来ていると思います。他分科会では生活者として意見のみを羅列するようなどころもあるみたいですが、第6分科会はコミュニティ、協働・参画など、全ての分科会に関わる要素を扱っているので、そんな単純ではなく、もっと踏み込んだものとしていくべきではないか。また、どう整理して、提言にまとめていくのか、まさに横串の問題をどう捉えるのか。今日はじめて、行政の具体的な協働についての説明を受けたわけですが、協働の事例は行政の中に色々あるわけです。そういったことを皆さんにも考えて頂きたい。

「協働・参画について」「コミュニティについて」。私たちの議論のまとめの資料がありますが、多文化共生、地域安全が行政の施策の中でどんな意味を持つのかも考え、まとめの中で大・中・小項目がどのように関係しているのか、行政の方とも直接、まとめ方の議論しながら進めていって頂きたいと思います。リーダーの意見はどうでしょうか？

- : “体系的”や“大項目”などの言葉を使うと難しくなりますが、要は体系の項目にどう入れていくかを考えることではと思います。今までの検討してきたこと、その結果をまとめた資料は大事なものですので、活用していきたいと思います。また、今までの地域安全や多文化共生のようなテーマごとだと、以前のように時間をかけなければならない。時間もなくなってきたので、どういう話し合いがいいのか、先生方に提案して頂き、区民委員側で選ぶようにできたらと思います。
- : 他の学識委員の方はいかがでしょうか。
- ◎ : (伊藤) 資料の平成17年度協働の取り組みをご覧ください。区側からは、総合計画を作る、私たちのこの場自体が“協働”とあります。それを考える場でもあると思います。今日、この場で議論して頂きたいのは、なぜ、あのような(ビオトープ)協働事業を始めたのか、どうしてやらなければならなかったのか。区役所だけでなく、区民などと一緒でなければでき

ないと思いついたのはなぜか。また、うまくいった、いかなかったことがあったと思います。ピオトープという共通の目的をもった。行政が引きながら、守る会の29人の話し合いの場がつくられたのかもしれませんが。市民同士がお互いの意見を尊重して聴くのは、皆さんも大変だと実感されていると思います。ピオトープづくりでも色々な人が集まって、ぶつかりながら議論してきたことは大変だったと思います。協働といった場合は、意見の違いやNPOや行政、区民などいろいろな人が集まるからこそ“協働”なのです。協働は、様々な人が集まって議論するからこそ知恵が生まれるのです。

自主・自立や同じ目的を持つなど、私たちが望む「協働」は何なのかを考えて頂きたい。そのための事例を提示したことになります。協働は、下請けになりがちな面も、行政と一緒にやってもいいものができるかもしれないという非常に期待する声もある。また危うさも必要性あります。どういう協働が正しいのか、関係性がいいのか、素材はいっぱいあると思います。この場を通じて、まさに協働・参画として、どういう構想・計画がいいのかを前提として思いを出していく。協働、安全なまち、括弧書きの多文化共生、嫌なら変えて、外国人と暮らしていくすてきなまちとして、事例などを参考にコミュニティ、協働・参画の議論をして頂きたいと思います。

◎ : (土屋) 配布資料の作成意図ですが、コミュニティの話をされていないと思います。

コミュニティづくりは、「町会・自治体がこれまでしてきました」ということでこれらの資料があります。町会はどういう現状になっているのか、区の方がどうなっているのか。また、NPOなどが現在、新しい町づくりの主体として注目されているので、NPOの現状も情報共有しておくべきだろうと思い、事務局に作ってもらいました。

また、第3分科会の街歩きの感想カードのまとめですが、コミュニティは、都市マスタープランの7地区の地域別に考える必要があるかもしれません。その際の、よい町づくりを考える素材として活用してください。また、コミュニティは、区全体で考えるべきですが、今10地区の地区協議会が作られ、それぞれに地域の特性があります。それを踏まえてコミュニティは、こうあるべきと考える必要があるとも思います。都市マスタープランも以前に配布されていますので、地域別のまちづくり方針もみておいてください。

● : ありがとうございます。ここまで、ご意見はございますか？

● : 質問です。平成16年度 協働事業進捗状況一覧ですが、協働の効果・課題は、協働の相手との合意のもとで書かれたものですか？それとも区側で書いたものですか？

○ : 効果・課題は、区側で書いたものです。

● : これから14時55分くらいまで、協働・参画の課題抽出の議論をして頂きたいと思います。班の人数的なバランスがとれていないところもありますが、どうしますか？このままでいいですか？それでは各班ごとに検討をお願いします。終了近くになったら声をかけますので、宜しくお願いします。

● : 今まで聞いた多くのことに関して、第6分科会として“こうしよう”という方向性を学識委員がまとめなくてよいのでしょうか？

- : 運営委員の中で話し合ったときに、答えを出すということも考えられますが、一つに縛られてしまうかも知れないので、お仕着せでなく提案だけをした方が良いのではということになったのですが・・・。
 - : 確かに“何を、どういう風に検討するのか”という問題提起をされたままで、「検討を始めて下さい」では、分かりにくく混乱すると思います。学識委員の話された内容を要約させて頂きますと、「協働・参画」のまとめを意識して検討するときに、今までのように“協働”とは何か、現状や課題、改善策へと詰めていくか、あるいは、まず区の具体的な協働事業に照らして、その施策体系や位置づけを見直すようにしていくのか、についても皆さんに考えて欲しいという事だと思います。
 - : お願いがあります。まるっきり分からない状態で来ているので話がまったく分からず、ここにいるのが辛い。学識委員で案を作って、これがあるから選んで丸をつけてください、くらいの方が私としてはありがたいです。
 - : 時間も無いので、説明はもっと簡単、明確にしてください。議事に予定されていた検討の時間が殆どなくなってしまうです。資料はありますが、私たちは民間で仕事をしているので、毎日検討しているわけではありません。今日はもう12月3日です。毎回、どう進めるかの話ばかりで、意味ある会議が進んでいるのか、まとめる時期がもう間近になっていますので、今後こういうことがないようにお願いいたします。
 - : それでは、議論を始めてください。
6. 各班での検討 (省略)
7. その他
8. 閉会
- : それでは次回、引き続いて検討作業をお願いします。運営委員会の方でも、本日の進め方についても整理するように話をしたいと思います。本日はありがとうございました。

<次回日程>

・12月17日(土) 13~15時 新宿清掃事務所 会議室